

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	12-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Associations between energy drink consumption and alcohol use behaviors among college students. 大学生におけるエナジードリンク消費とアルコール消費行動の関連		
執筆者		
Velazquez CE, Poulos NS, Latimer LA, Pasch KE.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2012 Jun 1;123(1-3):167-72		
キーワード		
エナジードリンク、アルコール、大学生		
要 旨		
目的： 大学生の年代におけるエナジードリンクの消費と種々のアルコール飲料の摂取との間の関連を調査する。また、これらの関連が性別や人種間でどのように変わるかを調査する。		
方法： 米国の公立大学に在籍する 585 名の学生(平均年齢 18.7 歳、白人 47.0%、ヒスパニック 21%、アジア人 25%、その他 7%、女性 55.6%)が被験者として試験に参加した。エナジードリンクの消費量に関して過去 1 ヶ月と過去 1 週間における消費行動について被験者から回答を得た。アルコールの摂取量に関して過去 1 ヶ月と過去 2 週間における消費行動を被験者から回答を得た。多量に飲酒した回数、アルコールの摂取量についても同様に被験者から回答を得た。エナジードリンクとアルコール飲料を混ぜたものの消費量についても回答を得た。エナジードリンクの消費行動とアルコール摂取の間の線形ならびにロジスティック回帰分析を行った。なお、性別、年齢、人種について調整を行った。		
結果： 過去 1 ヶ月におけるエナジードリンクの消費はアルコール摂取と有意に関連していた。過去 1 ヶ月のエナジードリンクの消費が 1 ユニット増加すると、過去 1 ヶ月におけるアルコール摂取が 80%増加し、過去 2 週間における多量に飲酒した割合も 80%増加し、さらにエナジードリンクとアルコールを混ぜたものの消費が 90%増加したことが分かった。エナジードリンクの消費と 1 機会あたりのアルコール摂取量の間には有意な関連が認められた ($p < 0.001$)。過去 1 ヶ月のエナジードリンクの消費と過去 1 ヶ月のアルコール摂取の間 ($p = 0.03$)および過去 1 ヶ月のエナジードリンクの消費と 1 機会あたりのアルコール摂取量の間において、性別における顕著な交互作用が認められ、男性の方が女性よりも強い関連を示した。人種間では顕著な交互作用は認められなかった。アルコール摂取が増えるに従い、エナジードリンクの消費も有意に増えることがわかった ($p < 0.0001$)。		
結論： エナジードリンクを学生は容易に入手することができ、潜在的な健康のリスクが生じる要因となっている。エナジードリンクを好む学生はアルコールも多く摂取し、これらを混ぜて飲む上に多量に飲む傾向にある。エナジードリンクとアルコール、およびこれらの相互関係がもたらす潜在的な負の結果を理解し、大学生に対する効果的な打ち手が待たれる。		